

平成 28 年度 第 4 回名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

平成 28 年 10 月 28 日（金）

2 会議の場所

市役所 6 階会議室西側

3 出席者

山田市長、瀧澤教育長、武田教育長職務代行委員、相原教育委員、佐々木教育委員
浅野教育委員

4 欠席者

なし

5 説明のために出席した者

小野寺教育部長、及川理事兼学校教育課長事務取扱、佐竹教育部次長兼生涯学習課長
大友文化・スポーツ課長、佐藤庶務課長、佐藤教育部企画員兼庶務課長補佐

6 議題

- (1) 基礎学力の向上について
- (2) ふるさと教育について

7 開会時刻

午後 1 時 30 分

8 会議の概要

佐藤庶務課長

それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。

教育長並びに教育委員の皆様にはお忙しいところ、第 4 回名取市総合教育会議にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

会議に入ります前に、お手元にご用意をいたしました資料の確認をさせていただきます。まず 1 枚ものの第 4 回名取市総合教育会議次第であります。この次第の裏面に本日の会議出席者の名簿を記載しております。この他ホチキス留めをした資料を一冊ご用意いたしております。不足はございませんでしょうか。

また、本日の会議は事前にご案内を申し上げますとおり、公開となっておりますので、ご了承をお願いいたします。

それでは只今から会議を開会いたします。開会にあたりまして山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しいところ教育委員会の皆様にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。市長に就任しての初めての総合教育会議となりますが、「聞く耳と対話」ということを訴えてまいりましたので、非常に良い機会ととらえてぜひ真率をしっかり図ってまいりたいと思います。

また子育てと教育の先進地ということでまいりましたので、そのような面も含めて教育委員のご理解とご協力をいただきながら事業を進めてまいりたいと思います。

さらに、新しい教育長新制度のもとでの教育長をお迎えしてご準備いただいてという体制になりますので、今後ともより一層連携と協力を深めながら名取の教育行政についてしっかり振興させていきたいと思います。

本日は、基礎学力の向上について、それから、ふるさと教育についてであります。委員の皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

佐藤庶務課長

今回は山田市長が就任して初めての総合教育会議でございます。次第 3 の議題に入ります前に教育委員の皆さまから自己紹介をお願いしたいと思います。

それでは、はじめに武田堆雄教育長職務代行委員からお願いいたします。

武田教育長職務代行委員

はい、皆さんこんにちは。10月1日から教育長職務代行委員になりました武田でございます。約40年近く学校に勤務しておりまして、その後名取市教育委員会にお世話になり生涯学習課、それから教育委員ということで務めてまいりました。

名取の地域が好きですし、そこで頑張っている子ども達が大好きだということが私のやっていくエネルギーになっております。今日は総合教育会議いろいろな話が出て、子ども達の為、地域の為になればよいなと思います。よろしくをお願いいたします。

佐藤庶務課長

ありがとうございます。それでは続きまして相原芳市委員をお願いいたします。

相原委員

相原です。よろしくお願いいたします。教育委員として平成 21 年から 7 年間ですか、名取はいろいろな課題がありますけれども、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思えます。

佐藤庶務課長

ありがとうございます。それでは続きまして佐々木靖子委員にお願いいたします。

佐々木委員

教育委員の佐々木靖子です。いつもお世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤庶務課長

ありがとうございました。続きまして浅野かおる委員にお願いいたします。

浅野委員

浅野かおると申します。10月1日から保護者の委員が必要というお話があったので、お引き受けさせていただきました。勉強しながらになりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤庶務課長

続きまして瀧澤教育長をお願いします。

瀧澤教育長

はい。10月1日から先ほど市長からのご挨拶にもありましたけれども、新制度の教育長ということで市長からご指名をいただきまして、ありがとうございます。

ただ私、今まで教育委員の皆さまに支えていただきながら、それから教育委員会の事務局の職員にも支えていただきながら仕事を進めてまいりましたし、気持ちとしては今までと同じ気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思えますし、市長さんはじめ、市長部の皆さまにもいろいろご支援いただいております。これからも連携しながら教育課題に取り組んでまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤庶務課長

ありがとうございました。

それでは次第 3 の議題に入ってまいります。ここからは、名取市総合教育会議設置要領第 4 条第 3 項によりまして、市長が議長として議事を進めていただきたいと思います。

す。

市長よろしく申し上げます。

山田市長

それでは、議題に沿って進めてまいります。皆さまよろしく申し上げます。

まず始めに議題(1)基礎学力の向上についてであります。本市においては今年度から新たに予算付けして「確かな学力」向上推進事業に取り組んでいるところであります。名取の子ども達の学力を向上させるための有効な手段について協議してまいりたいと思っております。

最初に事務局から「確かな学力」向上推進事業の概要について説明願います。

及川理事兼学校教育課長

それでは、お手元に準備させていただいた資料に基づいて説明を申し上げたいと思っております。

申し訳ありません。最初に資料の訂正を1カ所お願いいたします。

2ページになります。②ICT推進事業の枠の中になりますけれども、事業費の中のタブレット端末47台とございますが、児童用40台、教師用7台とあるところ、教師用15台に訂正をお願いいたします。あわせてタブレット端末は合計55台となります。

それでは、資料にございます「確かな学力」向上推進事業について説明します。

「確かな学力」は、知識や技能に加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見出し、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力なども含めた力とされています。詳細につきましては1ページから4ページまで書いてありますけれども、5ページの図をご覧くださいながら説明をさせていただきます。

この「確かな学力」を向上させるために3つの基本方法で取り組んでおります。1つ目は授業の改善、2つ目は教員の資質の向上、3つ目は教育環境・条件の整備を基本的な方向として、事業を進めていきたいと考えています。

事業の内容としては、7つございます。1つ目は各学校における取り組みの充実、2つ目はICT教育の推進、3つ目研究主任者会の活性化、4つ目教育委員会の指導体制の充実、5つ目市内教育機関等との連携、6つ目小中連携事業の推進、7つ目学校現場における業務改善の取り組みの7点で進めてまいりたいと考えております。

この事業一つ一つについて、若干説明を加えさせていただきます。

1番の各学校における取り組みの充実では、校内研究・校内研修を中心に全国・県の学力、学習状況調査の的確な分析を行い、日々の実践の中で授業改善に取り組むようにしていきます。

2つ目ICT教育の推進では、28・29年度の2ヶ年間、ゆりが丘小学校をモデル校に指定しました。タブレット端末や大写しできるプロジェクターを活用し、県義務教育課

で提案している miyagi style を実現して授業の工夫・改善を行っていきます。miyagi style では、はじめは教師による教材や児童生徒のノートの提示などの一斉学習での活用、その後、調査活動など児童生徒自身が機器を利用した個別学習、そして、発表や話し合いなどの協働学習の活用が示されています。まずは取り入れやすい一斉授業から取り組み、ICT活用を定着させていきたいと考えます。今年の7月に義務教育課の指導主事を講師に招き、ゆりが丘小学校で研修会を行いました。そこでmiyagi タッチというアプリケーションがあるのですが、その利用について研修を受けました。その後夏休み中、先生方はそれを授業にいかにか活用できるかそれぞれ研修いたしました。

9月15日に行われたゆりが丘小学校の指導主事学校訪問での授業では、ほとんどがICT機器を活用した授業となりました。また先日、ゆりが丘小学校に行きましたところ中学年でしたが、斜線の授業を図画工作の中で行っていたのですが、その際にもタブレット端末を先生方が持ち出しまして、子ども達と一緒に風景の写真を撮って「ここ、こういうふうに描いてくるといいよね」というアドバイスをするなど活用しています。

授業・教科のねらいの達成のために無理なく活用が図られています。そして、その成果と課題を活かしながら、平成30年開校の閑上小中学校を含め各小中学校に機器と指導法を順次導入していきます。

各学校での校内研究・校内研修の中核となっているのは研究主任です。3番目の研究主任者会の活性化では、研究主任の情報交換の場である研究主任者会で、①家庭学習、②学級づくり、③授業の工夫の3つの観点を持って「確かな学力」向上に取り組む先進地への研修視察を行う予定であります。視察には、市内小中学校研究主任と担当者20名、来週月曜日10月31日と翌日11月1日の1泊2日の予定で秋田県湯沢市立雄勝小学校・雄勝中学校を視察する予定です。そして、学んで来たことを各学校の取り組みに生かして行きます。

4つ目になります。教育委員会の指導体制の充実では、学校教育課に学校教育指導専門員を置き、各学校の校内研究や研究主任者会等の指導に専門的に当たってもらいます。週4日の勤務で、研修会や要請に応じて学校訪問等を行います。

5つ目です。市内教育機関との連携では、尚綱学院大学や仙台高等専門学校名取キャンパスと連携した研修の機会を設けます。仙台高専では、平成22・25・27年に小学校教員を対象に理科の研修会を実施していただいております。今年度も実施することができました。今後は毎年実施できるようにしていきたいと思っております。また、尚綱学院大学においても教員の研修の機会を設けて頂くよう連絡をしていきます。

6つ目になります。小中連携事業の推進では、中学校区を中心に、研究授業の相互参観や児童生徒の交流を図り、小学校と中学校の教員の相互理解と連携を進めます。そのような取り組みで中1ギャップの軽減などにつながることを期待しています。

最後7つ目になります。学校現場における業務改善の取り組みでは、児童生徒と向き合う時間や教材研究の時間を確保するため、効率よく業務を行えるように工夫していき

ます。

これらの取り組みを通して、名取市の子ども達の「確かな学力」の向上を推進してまいりたいと考えています。

以上で説明を終わります。

山田市長

只今、事務局から現在進めている「確かな学力」向上推進事業について説明がありましたが、委員の皆さまからご意見等をいただければと思います。

武田委員いかがでしょうか。

武田教育長職務代行委員

本日の資料は一読させていただきました。このような取り組みで現在やっていて、先だって教育長より、今年度の名取市の学力調査の結果をお知らせいただいて、平均点であれば全国レベルよりも高いという結果が出たようで、極端にレベルが下がっているという状況ではないのですが、やはり教育の課題というのは学校だけではなかなか解決できない仕事で、ここにも書いてありますように、教員の資質の向上、各学校の特色、さらにはこれからの課題だと思うのですが、子ども達の学力だけではなくて体力なども含めて、家庭との連携、中核となるのは各学校のPTAの方とか、市PTA連合会の方とか、あるいは教育委員会や校長先生はじめ、いろいろな方達の総合連携プレーで子ども達が学習できるような環境づくりをきちんとしてあげることも、ひとつの大きな課題と思っています。

それからもう1つ、ICT教育がこれからの教育の大きな柱になるということで、ゆりが丘小学校の実践が各学校に普及して、なお且つ、小中一貫校となる閑上小中学校のひとつの特色、柱になってくるような熟成された段階で一貫校として頑張れるような形、そういうのが大事なことかなと思います。

それから最後になりますけれども、私達は教育委員としてこうした会議だけでなく、学校現場や教育機関などいろいろな現場で肌に触れて、実際に見て感じるものがこれからも大事ななと思いましたので、そのような意味でもいろいろな場所に行かせていただいて勉強させていただき、名取市の教育の向上に繋がればいいなと思いました。

読ませていただいて、取り組みや成果などいろいろありますけれども私なりのお話をさせていただきます。

山田市長

ありがとうございました。武田委員からは家庭との連携、子ども達が学習できる環境をどう作っていくことができるか、それからICTについてはゆりが丘小学校で取り組んでいる内容をしっかり熟成させて、閑上小中学校等に繋げていくべきではということ、

あと、教育委員として実際にいろいろな現場を見て進める方向でいきたいというお話をいただきました。

他に、このことについてでも構いませんが何か感じるものがあればありませんか。

相原委員

はい。

山田市長

相原委員どうぞ。

相原委員

今、武田委員がお話ししたような家庭学習の徹底をしていくとか、あるいはICTをゆりが丘小学校だけでなく拡大していく、そういう形で1番最後に出てきている教員の負担ですが、この辺の業務改善というので今具体的に教員の方から、こういう改善が必要だということは要望として何かあがってきているのですか。

瀧澤教育長

はい、すみませんよろしいですか。

昨年度ですが、市内の小中学校の校長、教頭全員からかなり細かいアンケートを取って、学校がどのような事を、そして今業務改善を必要と感じているかの実態調査をさせていただきます。その中で、1つは学校の中で各学校において業務改善の為に工夫をしているところを項目ごとにわけて、一覧表に私の方でまとめて学校にフィードバックしたのですけれども。例えば学校の中でも会議を精選するとか、各学校で取り組んでいる中身について他の学校でも参考になるようなものをご紹介いたしました。

あと教育委員会のほうに業務改善の為にお願いしたいことも全学校にあげていただいて、これもたくさん出てきました。多かったのは学校へ行く文書ですね、調査もの、報告ものそういったものをできるだけ精選してほしいということが、学校からはかなり要望としてあがってきています。それらも全部学校から出たものをそのままの文章であげて、教育委員会としての考えも書いて、それも学校のほうに戻してはいます。文書類などもかなり教育委員会にまづきた段階で、これは学校に流すものなのか、教育委員会で完結できるものであれば学校に照会しないで報告するとか、いろいろ工夫はしているのですけれども、やはりどうしても学校に知らせておかなければならない内容とか、学校に直接調査してもらわないと分からないような内容もありますので、なかなか減らすのが難しい状況もあります。ただその中で、できるだけ電子データでやり取りできるものは電子データでやり取りをするとか、あとは今非常に優秀な校務処理ソフト等もありますけれども、そうしたものの電子化に取り組むことにより、業務改善ができないかとい

う要望もたくさん出ております。それについて部分的には取り組んでいるのですが、ただ市全体で校務処理ソフトを導入するまでにはいっていません。

それからあとは、いろいろな行事に子ども達が参加するとか、先生方が研修会に参加するとかそういったものを精選することも含めて数多くの意見が出ていました。

ただ、例えば給食の報告というのがかなり細かい報告を求めているのです。食数とか何か。それを例えば教育委員会で全部まとめてくれないか、管理ができないかとなったのですが、学校の責任としてどうしてもやらしてもらわなくてはならないことはお願いしなくてはいけない。それは学校長、学校の責任で大変なのはわかるけれどもやったださいというもあります。学校から要望があっても「はいそうですか」というふうに簡単に聞けないような内容もあります。その辺取捨選択しながらも学校には全部回答してあるのですけれども、学校の声聞きながら少しでも先生方が子どもと向き合う時間が確保できるよう取り組んでいきたいと思えます。

山田市長

はい。今学校の先生方の教職員の負担改善ということで、実態調査をした上でいろいろ対応できるものはしていくということでした。他に何かありますか。

武田教育長職務代行委員

今の件なのですが、学校現場の負担軽減というのは大変な状況にある。全て教育というと学校現場が矢面に立たされている事件とか事案が非常に多い。それから、いろいろな連携をとっていくのに報告書等を含めて非常に内容が細かい、迅速さを要求されるということで、もしできるならば、名取市だけの課題ではないのですが、1つは学校の負担軽減をするために連携協力、先ほどもお話ししましたが、家庭でできることは家庭にやはりしてもらう必要がある。それから地域との連携の中で上手く育てられるものは連携していく。

2つ目は今教育長からも言いましたけれども、事務処理能力をスムーズにしていくには機器の運用としてシステムやソフト等の機器を使用して軽くしていく。

一つぜひお願いしたいことは、それらを指導する方を宮城県で雇うのは難しいですけれども、人の確保、今年度から指導の先生を1人雇いましたけれども、複数にしていろいろな視点で改善・工夫を指導し、実際に教えてあげる人材を教育委員会で確保していただき、派遣して指導していただきたいと思うのですが、ぜひ市長に人材を確保できるようなお金を手当てしてもらえようようにしていただきたい。

例えば学校の事務職員でいうと、事務職員も今までは学校ごとに一人一人いたのですが、事務職員の中でも事務長が複数校を指導するような形の組織に変わってきています。あれも若い人達を育てる、あるいは事務の負担を軽減していく、事務を共同で集まり処理していくような形に県の方でも2年前から変わってきています。それも含めて名取市の

中に人材を確保していただけるといいなと思います。

名取市の教育の一番の骨になるのは、恐らく小中一貫校、義務教育学校になるかと思いますが、学校の先生は転勤がありますので、名取市の教育に根付いて長く教育を見て行く方がなかなかいないです。ぜひ名取市で教員を雇って「名取市の教育というのはこうですよ」と核になるような指導・支援ができる教員、都道府県、政令指定都市によっては独自に教員を採用しているところもあるので、ぜひこれも市長、お金が確保できれば名取市採用の教職員、これが複数名いれば、今後の名取の教育において、どのような人が代わって来ても、代わっていかれても「名取市の教育はこうですよ」と伝えることができるので教育委員会の太い柱となる指導力をもつ方がいればと思うのですが、いかがでしょうか。

山田市長

市採用の教職員についてはお金もかかりますので、ひとつの名取市の教育の持続性・継続性、そのようなことを含めて、もしくは、どれだけの思いを持ってやってくれる方がどれだけいるかということで、子ども達に対する影響も変わってくると思いますので、まあ一つの宿題をいただいたなと思います。

あと学校教育課の指導専門員の方ですね、今年初めて取り組んだ方、これを確かに複数いればということもあるのですが、この方については現状、実際どのように機能しているのか、本当にそれをその検証から入ってから次ということになりますが、先ほどの学校現場での業務改善にも繋がりますし、わかる授業にも深みを増すことに繋がるかなと思います。

その点はいかがですか。

瀧澤教育長

私からも武田委員と山田市長からお話があったことについて、後でお話しさせていただきたいと思いますが、学校教育指導専門員の現状及び今の動きについて学校教育課長からお話しさせていただきます。

及川理事兼学校教育課長

学校教育指導専門員に退職された校長先生に来ていただいておりますけれども、名取市内でそれぞれ16校、自分の学校でも独自の校内研究のテーマをもって校内研究を進めて、そしてそれぞれの学校で授業の改善に取り組んでいるところでございますが、主に校内研究への指導・助言という形で指導していただいております。学校の指導主事訪問等にもお越しいただいて授業を見ていただき、全体会に参加をお願いしたりするところでも取り組んでいますし、学校独自に行っている校内研究授業、その検討会そちらの方にお招きいただいて、そちらの方での助言・指導を行っているところであります。

また、校内研究を中心に行っている市の研究主任者の集まりで、そちらの方にも中心的に入っただいて、そこでそれぞれの情報交換を積極的に促していただいて、今回の秋田への研修視察についても中心的に計画をしていただいて進めているところであり
ます。

以上です。

山田市長

改革の方向にはあるのでしょうか。

及川理事兼学校教育課長

今取り組んでいることが基礎学力の向上に繋がっているか、直接直ぐに効果が表れるか
かという、そういうふうにポンポンいくものではないかと思うのですけど、この地道な
な努力が基礎学力の向上や、確かな学力の向上に繋がっていくものと確信しております。

瀧澤教育長

ちょっと関連して。戻りますけれども、まず名取市として学校現場にだいぶ前から
すけれども、小中学校に一人ずつ教員補助者を配置していただいております。それから
特別支援教育支援員はスタートでは十数名で、どこかの学校には配置できなかったの
ですけど、現在 26、7 名か 24、5 名かな、複数名で学校に二人ずつ配置しているところも
かなり多いということで、その二つあわせても 40 人近い職員を学校現場に配置して
いただいている。

あとこれは従来からですけれども、労務技師 1 人ないし 2 人、あと全ての学校に学校
司書も配置していただいているということで、特に特別支援教育支援員については、年々
通常学級で支援の必要な子どもが多い中で、増加傾向にあるのを毎年認めて
いただいているということでは、配慮していただいているということ
で感謝しております。

先ほどの業務改善で武田委員からもお話しが出たように、私もやはり一番欲しいのは
人です。人を学校に増やしてほしい。それで文科省の方でも国レベルで財務省から、
子どもの数も減っているのだから先生の数も減らしていいだろうというのを、
学校現場の厳しい状況を踏まえて、子どもは減るけど少なくとも教員数は現状維持と、
相対的に教員を多く配置するという考え方で、財務省とは交渉している
ようすけれども、なかなかその成果は何なのか、費用対効果ということで財務省を説得
できないこともあります。

それでこれは市長へのお願いなのですが、いろいろな機会があれば学校現場で
先生方がかなり厳しい状況の中で、忙しい思いをしながら子どもの為に頑張っている
という状況がありますので、ぜひ先生方の負担軽減も見据えて教員の少なくとも現状
維持、あるいは増ということをいろいろな場面でお話しをしていただくと大変ありがた
いな

と思っております。

県内でも白石市のように独自に35人学級にして、教員を市でみているところもあります。ただ名取市でもそこまでお願いできるかという、なかなか難しいところもあろうかと思うのですが、やはり何らかの形で人の確保というのも今後大事だと思います。

あと学校教育指導専門員ですけれども、実は私も指導主事訪問があるとできるだけ授業を見に行くようにしているのですけれども、例えばある中学校、その学校はかなり先生方が意識して授業を工夫しているのがわかった学校もありました。それは今言われているアクティブ・ラーニング、子ども達に能動的な活動をさせてやる取り組みをどのクラスでも工夫してやっている学校がありました。しかし別の学校ではなかなかそういう先生方の工夫が見られない学校がありました。

ただ学校教育指導専門員が各学校の研究主任などに、「こういうふうにするといいよ」と指導・助言アドバイスをしているのです。それをきちんとうまく取り入れてやっている学校も出てきています。今、まだ一年目ですので、劇的な成果というまでいきませんが、確実に学校の授業の向上には結びついてはいるだろうし、今後さらにいくのではないかなと思っております。

山田市長

学校教育指導専門員の方は仕組みというより、まず人だと思っております。いわゆる学校の現場に行ってお話しをして「なるほどな」と思って取り組みたくさせる人・指導だと思っております。それがあから先ほど言ったような形に繋がってきているのだと思っておりますので、その辺を含めて今後の取り組みとしても引き継いでいけるように、ぜひ重視していきたい。

いわゆる負担軽減の方なのですが、一つの考え方としては教職員、学校現場の人を増やしてほしいということも理解はできるのですが、学校の負担を増やさない、もしくは少し軽減になるという意味で地域の力とか、退職の先生方もしくは尚綱学院とか高専など学生ボランティアとの連携を図るという視点では、何か皆さんのお考えはないでしょうか。

佐々木委員

はい。仙台のある中学校では地域の方の力を借りて、それで授業に入っているという学校があるんですね。その方は私ぐらいの年代の方なのですが、教員の資格などは持っているわけではなく、年間を通して1年生の授業に入っているようで、先生方にするととても助けになっているということは言われているらしくて、お互いに地域の方々も地域の子供達をみているという自負や誇りもありますし、育てているという生き甲斐もあると同時に、子供達にも先生がちょっと目の届かないようなところをそこに行ってあげるということなので、そうしたやり方も有効なのではと思います。

山田市長

いわゆる学習補助というものにあたると思いますが、これはどうなのでしょう。逆に
かえって負担が増えるということになりませんか。

武田委員いかがでしょうか。みだりに入ってこられると、ということもあるのかどう
か。

武田教育長職務代行委員

人によると思うのですが。教員の資質にもよるのですが、今の子ども達はなるべく多
くの方に接するなど、小人数で取り組めば指導効果が格段に上がるということがいわれ
ています。チームワークなので授業というのは。その辺のミーティングなどしっか
りできていれば指導効果は一人でやるよりも数倍高まるのではないかと。いかがでしょ
うか。チームワークですね学校というのは全部。

山田市長

保護者の視点で地域の力を借りて学習支援などとか、例えば夏休みなど高専の方や尚
綱学院の大学生のボランティアで、宿題を含めて学習支援をいただくというのはどうな
のでしょうか。

浅野委員

そうですね、私は保護者として親として思うのは、子どもにとって親でもなく学校の
先生でもない第3者の大人の人との触れ合いというか、関わりが必要なのではないかな
と私は常々思っています。私は今、娘がピアノの先生のところへピアノを習いに行く
というよりはおしゃべりをしに行く、それでいろいろなことをしゃべって来るらしいの
です。親にも先生にも言えないような悩みを交わせる大人、そういう大人の人たちが周
りにいっぱいいるという状況があるといいなと思っているので、それが例えば地域の
ご年配の方であったり、小学生にとってみれば学生ボランティアの方も十分な大人で一番
話がしやすい年代の大人になるのかなと思うと、そういう連携がとれていつものあの
人が今いるという安心感が貰えるのかなと思うので、できたらいいですね。

山田市長

いわゆる学習以外の効果についてですね。

浅野委員

はい。心の方ですかね。心が穏やかであれば、多分学習へも繋がっていくのかと。今
ちょっと子どもは心が疲れているところがあるので、その心の疲れが学習に結びつか
ないということがあるのではないかと思います。

武田教育長職務代行委員

先日ある本を読んでいまして、『子どもが育ちにくい、子どもが大きくなりにくい社会』それは例えば、小学生が家から学校までに行く間にも学びの場というものがあるなど、それから、学びが友達関係の中から学べる上下関係も含めて、公德心・道徳心もですけど学べる仲間が少なくなってきた。それから不審者・変質者というのがとても多くなってきた、人を信用しないというのを身に付けてしまっている子どもが非常に多い。

また、もう一つは情報がとても多くなってきた、スマホ・インターネットいろいろなことで人との直接の関わりではない間接的な関わりの中で、人を信じたり見たりそういう環境の中で育てている子ども達がいる。それで書いてある結論は何かというと、もう一度子どもの育ち、学びに対して親や教師や地域がどういう手を差し伸べ環境を作っていくかをしっかりしていかないと、次世代の子ども達は大きならないというのが結論です。名取の子ども達のいろいろな課題をお話ししているわけですが、本当に今、そういう課題に直面している現状にあるかと思います。

では名取の中で何ができるのというのが、この総合教育会議の一番の基本だと思えます。もう一度子ども達を見つめ直し、どのように子ども達を育てていきたいか、その中で名取の特色が改めて出てきます。その問題はもう一つ付け足すと、学校や教育委員会だけでいくら大きな看板を掲げても前には進めない。そして何回も言いますが親がまず頑張らないと、親が「こうだね」とうなずいてくれないと、それに加えて地域の方、いろいろな力を持っている方、子ども達を支えている方達の力を借り、見守りながら子どもを育てていきたいと思いますというところが、この次の話になるのですが、名取の子ども達を育てる特色になるふるさと教育の一つの基になってくる。子ども達をどのように導いていくかというのが、我々が話している総合教育会議ではないですけど、学校単位で子ども達のことを考えていく。

そう考えるきっかけは、学校評議員制度というのがあるのですが、既に形骸化されていて全然有効にいかされていない。評議員が学校に行って「こうですよ」と校長先生に説明を受けて「そうですか」と帰って行ってしまっただけで終わってしまう。本来の目的は今我々が話していることを学校評議員達がお話しをして、ではどのようにして連携していきましょうか、助けていきましょうか、子ども達を育てましょうかと学校現場について具体的に話し合える場として育てていかないと駄目で、もう一度、学校評議員制度を見直し、協力してもらうことが、子ども達を育てるきっかけになると思います。

山田市長

学校評議員制度については厳しいご意見も出ましたけども。

瀧澤教育長

はい、すみません。

山田市長

では、教育長。

瀧澤教育長

先ほども市長からもありましたが、学校現場でもっと退職した先生、地域、市内の教育機関の力を借りたらどうかということについてなのですけれども、私も全くその通りだと思います。

ここに、先ほど及川課長から説明した市内教育機関等との連携というのをあげているのですけれども、実際はいろいろな連携はしているわけなのですけれども、市内の教育機関だけではなく、閑上中学校では夏休みに宮教大の学生が学習支援に来てくれてますし、あと高館小学校などでは仙台大学の学生がいろいろと陸上の時などに来てくれたりしています。尚綱大学では本年度はゆりが丘小学校にずっと継続して学生が行き来しています。それ以外では愛島小学校で小学校の陸上競技会の時にお手伝いをしてもらいました。ただ、なかなか交通手段の問題や、この間の尚綱大学との意見交換会でも話ができましたけども難しいところもあります。今後、先ほど課長がお話ししました先生方への英語講座の話がでたのですけれどもいろいろなところでやれることはやっていきたい。

あと地域については、これからのふるさと教育というのもひとつのテーマになりますけど、地域の方の力を借りる、あるいは地域と連携していくというのは今各学校で取り組んでいる防災教育の中でもひとつの課題になっています。かなりの地域が積極的に学校と一緒にやっっていこうという地区と学校で働きかけてもなかなか動かないという地区もありますけれども、どっちがどっちということはないのですけども場合によっては学校が仕掛けていくようなことも必要だと思いますが、地域と学習支援という今のお話しの中だけでなく、いろいろな面で連携していく事が必要だと思いますし、特に閑上小中学校については、まだ地域が完全に熟成しない状況の中で学校ができあがりますので、学校がかなり地域づくりの役割も果たしていかないといけないと思いますので、学校と地域の関わりというのを常に意識して取り組んでいきたいなと思っています。

山田市長

教育機関との連携の部分、ボランティアこれは(5)の連携のところは主に研修会、教員の資質向上のところではやっておられると思います。

瀧澤教育長

はい。

山田市長

ボランティアについてはこれまでも議論されていたように、場所がわからないとか、行き方がわからない、移動の為の費用がどのようという、これを例えばICTであればゆりが丘小、高専と連携して理科学習のボランティアはこの学校だ、夏休みの有効活用した学生ボランティアについてはこの学校だということで、こちらから指名をするなり、働きかけをして手をあげていただくなり、そういうモデル校的なことを各校一つずつではないですけど、そのような形で進めることも可能かなと。今はあくまで手上げ方式でこういうふうにできますよということで、あとは学校で高専や尚綱と学校でやり取りして下さいということで、実際そこにアンマッチが生じた時にそれを解決するだけのエネルギーが学校現場にもなく、一応紹介はしたけれども手を上げる子ども達は少ないとか学校が少ないということになっていると思います。そこをあなたのところでうまくやれるようにやって下さい、教育委員会としても市としても支援しますよというのがあればモデル作りになるのかなと思うのですけど。

瀧澤教育長

今のお話しなるほどと思いました。尚綱大学などですと教育委員会の庶務課の方で間に入ってやりとりしているのですけども、どうしても学校で例えば、こういう機会にこういうボランティアが何人位欲しいと、ただ尚綱大学に言うと、そこはちょっと無理ですねとそれで終わってしまうというのが確かに現実です。だから学校のニーズと尚綱や高専のニーズをこれだったら結びつくのではないかとこのところまでコーディネートして、今市長がおっしゃったようなモデル的な形として取り組んでいくというのも、ひとつの連携の仕方かなと思います。ちょっと考えてみたいです。

山田市長

その他、1番目の基礎学力に関してございますか。

全員

特になし。

山田市長

よろしいですか。それでは(1)基礎学力の向上については、現在、教育委員会で進めている「確かな学力」向上推進事業を実施していく中で、本日話し合った内容も含めて取り組んでいただきたいと思います。

次に、(2)ふるさと教育についてを議題といたします。

まず、現状について事務局から説明をお願いします。

及川理事兼学校教育課長

それでは(2)になります。ふるさと教育についてご説明を申し上げたいと思います。資料の方は6ページの方からです。

ふるさと教育については郷土を愛する心や態度を育てる指導については、文部科学省が示す学習指導要領や宮城県教育委員会が示す学校教育の方針と重点の中にも、その重要性が示されております。また、名取市の教育基本方針の中にもふるさと名取を愛する心情を育むことが具体的施策の一つとして位置付けられており、市内の児童生徒にとって、郷土を愛する心や態度を育むことは地域の復興や発展に貢献できる人材育成の観点からも重要な教育の一つであると考えます。

市内小中学校においては、ふるさと教育の一環として、各学年の発達段階に応じて、地域の素材や人に触れながら、地域への愛着を育む学習を行っております。

その実践例と言いますかその関係する部分として資料の6ページ以降をご覧ください。小学校では1,2年生の生活科で学区を探検する活動を通して、地域の自然、生活を学ぶ授業が組まれていることが多くあります。3年生から始まる社会科や理科では、市全体の産業・暮らし・自然・文化財などに視野を広げて学習を進めております。また、総合的な学習の時間では、地域素材について調べ学習を行ったり、体験学習したりして、学習の成果をまとめて発表する取り組みが行われています。

また、中学校では、中学校2年生の段階で行われていますが、地域の事業所の協力を得て、職場体験学習を実施し、地域の産業を体験的に知ることが行われています。

30年4月開校の閑上小中学校では、「閑上学」を創設し、9年間での地域素材を活かした学習を教育課程として体系的にまとめようと考えて教育計画を策定しているところがあります。そして、この「閑上学」と同様の取り組みを、中学校区ごとの小中連携の中で行っていこうという構想を持っております。

以上で、ふるさと教育に関する現在の取り組みの様子を紹介と今後の展開についての説明とさせていただきます。

山田市長

只今、事務局から現状について説明がありました。いろいろな取り組みを各学校ごとでしているようですが、これについて委員の皆さまからご意見をいただければと思います。

相原委員いかがでしょうか。

相原委員

私は地域の中のふるさと教育というのは非常に大事なことだと思います。これからも進めて行くべきだと思います。何しろ最近はこの動きが激しくて学区も変わってきたり、いろいろな所からの転校生もいたりするということで、そういう人達が本当にこの名取

を自分達の地域だ、住み良い所だという意識付けをどのようにするかというのが大事なのだと思うのです。ここから高校、大学に行った時に「あの町で育って良かった」という思いが浮かぶようなふるさと教育ということを推進していく必要があるのだろうなと思います。

これも先ほどと同じでやりたいことがたくさんあるのですが、それをやればやるほど教員の負担がかかり、単に副読本を持って来てみんなで読みあわせるような事とはちょっと違い、実際にふるさとの現場を見に行くとか、中学校の職場体験等も先生方の負担がかなりあると思います。そういうことも含めて学校同士の連携や地域との連携が大事な事だと思います。学校だけが全てをとというのは厳しいと感じます。

山田市長

移り住んできた人もふるさとと思えるような教育をという事と、教員の負担も考えながら学校だけでなく地域と連携しながらというご意見がありました。他に何かありませんか。

佐々木委員いかがですか。

佐々木委員

私も子ども達にとって確かな学力と同時にふるさと教育というのはとても大切なことではないかとずっと思っております。例えば名取のふるさと教育というものは、こういうものかというものはあるのでしょうか。そういうものが必要なのかなと私が気付いてないだけだと思いますけど。

その中で1つは自分たちの町、学区ごとの地域を知ることでもあるのですけれども、やはり名取市内は西に東に広いので、市内の別の地区も名取なので、そのような所を知るのも大事な事だと思います。

その中に被災地を見るような事が全然入っていないというのが少し思いました。今は学びのプログラムということで、いろいろな所から中学生、小学生の高学年、高校生とたくさんの方が被災地を訪れています。その中でどこに住んでいても同じ名取市内の子ども達というのは、同じ名取の海岸の区域でそのような事があったことを、現場に行くと、現場を見た中から感じたもの聞いたものを伝えていったりする役目が子ども達にもあるのではないかと思っておりますので、ぜひそうしたものもこの中に一つ入っていればいいなと感じました。

山田市長

たいへん深い話を頂きまして、教育委員会が名取市全体を含めまして名取のふるさと教育とはなんだろうというお話しをいただきました。

武田教育長職務代行委員

はい、よろしいでしょうか。

山田市長

はい。

武田教育長職務代行委員

お伺いしたいことがあるのですが、平成 28 年 9 月 2 日再調査とあるのですが、これは文科省の指示でふるさと教育について調査した結果なのですか。それとも今回の話題のため、ふるさと教育について調べたものなのですか。

及川理事兼学校教育課長

文科省の調査ということではありません。教育委員会として学校がどのように取り組んでいるか調べたものです。

武田教育長職務代行委員

ありがとうございます。

読ませていただいて非常に興味が沸いた、心を動かされた資料でした。それは何かと申しますと、まず 1 つ目として、今佐々木委員がお話しされたように、ふるさとって何だろうと考えた時、まず大きな視野で考えると、名取市はどのような町で、どのような人が住んでいて、どのような文化があるのか、それらがまとまり名取全体として何が言えるのか、全て副読本に書いてある。それを 4 年生の段階でふるさと学習の中で名取市のことを考えてみるべきなのですが、各学校により副読本の中に書いてあるような名取市全体をどうとらえていくかというのは、影が薄かったというのがひとつです。

2 つ目です。各学校によってはこれぞふるさと教育だということで、各学校の取り組みで特色のある学校が出ていたので面白いと思いました。しかし、中にはふるさと教育とは少し違っている学校も結構ありましたので、これは今年度だけの調査ではなくて追跡という形で、名取市をどのように考えていくかのひとつのきっかけになるのではと思いました。

1 つ目の解決策として、先ほど佐々木委員がお話ししましたが、名取市の子ども達がお互いに交流できるものは音楽祭や陸上記録会などがありますが、実は上山市には海の子山の子交流会というものがあるのですが、名取市の中でもお互い交流して、山の子が海の方に行き、海の方の町はどうなっているか、その地域で大変な事があったことを知る機会をもつ、そのような交流の機会は 1 年でどっとするわけではないですが、教材や教科に応じて交流できることは共同で学習できるようにして、そしてそのことを研究していくモデルがあってもよいのではと思います。それがふるさと教育の中に位置づけされ

て広がっていくと思いました。

結論から申し上げますと、やはりこの地で生まれて育っていること、私は名取に住んでいる子どもだということを意識させ、考え、将来のことを見据えたりできるような子どもを育てていくというのは大きな柱になると思いました。今後とも続けていっていただければと思います。

2 つ目のことについてですが、中学校を見ましては非常に影が薄いふるさと教育です。職場体験というのは違った意味でのふるさと教育だと思います。職場体験をふるさと教育に位置付けるのは少し違っていると思いました。

その中でこれはぜひ進めていきたいなと思ったのは、増田中学校や閑上中学校等いろいろなところでボランティア活動をすることによって、自分達の地域を考えていき、人との交流を進めていくということを具体的にしている学校がある。これは素晴らしいなと思いました。ですから職場体験でふるさと教育だといってしまうのではなくて、小学校で学んだ事を中学校として何ができるのかという繋がりの中で、ふるさと教育を考えて頂けるようなものになっていけばありがたいと資料を見て思いました。

山田市長

こちらも深くいいご意見をいただきました。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

ふるさと教育といった時、この資料の無形民俗文化財に関わる学習ということで閑上、館腰等あるところはいいなと、それにきちんと取り組んで継承していくということで羨ましいです。私は相互台在住なのですが、相互台は何もなかった山を削って、名取百選もカタクリだけという感じですので、相互台としてふるさと教育は資料の 10 番目を見ても寂しいと思いました。ただ、何もない相互台ではあるのですが、武田先生にもお手伝いをいただきながら、夏祭りは 28 回目で毎年開催してしまして、そこに子ども達が子ども達自身で入り込んでいけて、自分達で作ったお祭りだと思っていけるような形に将来なると嬉しいなと思えます。何もない相互台なのですが、自分達で何かを創ってふるさとと思える何かのお手伝いができればと思っております。

山田市長

総合 6 年のテーマは「宮城探訪」ではなく、「名取探訪」でなくてはダメですね。

浅野委員

そうですね。

私もたまたまこうして少し関わる事がありまして、PTA等に関わることもあり名取

を見渡すことができるようにはなっていないけれども、やはり山の端っこに住んでいる相互台の人たちは生活圏が仙台ということで、名取の事を大人も分かっていないということがあります。震災前であれば地引網で閉上のほうに訪れることがあったのですが、それが無くなってしまったということで、なおさら子ども達も津波のあった場所というだけの認識になってしまったと私は思いますし、それは忘れてはいけない部分ですので何かしらの交流が全体的にあるのは必要ではないかと、名取全体をふるさとと考えた時に大人も子どもも含めて知っていかなければと思います。

山田市長

大事なのは名取の名取としてのふるさと像ですね。「名取というのはこうだよ」「これがふるさとだよ君たちの」ということだと思う。相互台も閉上もいろいろあってひとつの名取というのを共有できるようなふるさと像というのが必要なのかなと。浅野委員のおっしゃるとおりです。

瀧澤教育長

ちょっとよろしいですか。

山田市長

はい。

瀧澤教育長

私も各委員の皆さんの意見を聞いていて、今後の取り組んでいかなければならない課題も見えてきたなと思っています。

先ほど武田委員からもありましたが、小学校の3、4年生で使っている副読本は多めはないですか。市長や各委員におあげしたいのですが、後でお願いします。

副読本にまとまっているのですが、今私もこれを見て中学校は寂しいなという思いはしていました。それで課長が最後の方に「閉上学」というお話しをしたのですが、今、資料は用意していないのですが、閉上小中学校では1年生から9年生まで9年間を通して閉上について学んでいくというようなカリキュラムを作ろうとしています。実は私はこれを他の中学校区でも全部が全部うまくできるわけではないですけども、例えば「愛島学」であるとか「高館学」とか、「相互台学」などはどうなのかなと団地のほうなので。ただ、小学校ではかなりやっています。中学校でもこういうふうに出てきていますけどもふるさとに関する何らかの取り扱いはしているはずで。小中一貫校を作って小中連携を進めていく中で、ひとつのふるさと学習についても小学校と中学校でどうふるさとに関する学習をしているのかを、もう一度、小中の先生で話を少し閉上学までいなくても小学校ではこういうことをしている、中学校ではこんなことしている、だ

から関係あるね、という小中のふるさと教育についての繋がりを考えていきたい。

出来ればこういう考え方で最終的には「名取学」みたいな形にもっていければいいなという思いがあります。ただ、今は思っただけで具体的にどうするかというのにはかなり課題があると思うのですけど。

相原委員

小学校あたりでは学区ごとのふるさと教育がいいのだけど、中学生になると今お話ししたように「名取学」みたいなものでないと、閑上は閑上、こちらはこちらですというものではなく、いわゆる「名取学」としてどうふるさとを意識するか、地域の中にはこのような地域があるし、こういう地域もあり、お互いに連携して取り組むというのが最終的な名取のふるさとをという、そういうイメージをもってもらえるとありがたいと思います。

山田市長

名取はすごく自然が豊かで、海があり平野があり山があり、間を増田川や川内沢川でつないでいて、そのように自然が豊かであると同時に、雷神山古墳や熊野三社や約 180カ所も古墳があり歴史・文化が古くて、なお且つ仙台市の隣で空港がありアクセス鉄道があり鉄軌道もあり道路もつながって、アクセスがいい暮らしやすい町、産業もあるということで、それを航空写真で一つとして見られる。愛島小学校の愛島はこうだよ、館腰はこうだよ、ではなくて、名取市ってこういう町なのだというのを子ども達が写真を見て実感できるような、そういうことも大事かなと、名取全体はこうなのだなと機会があればそういうことも教育していきたいし、そうしていけたらいいのではないかなと思います。

武田教育長職務代行委員

ぜひ、それに取り組んでいけたらいいなと思います。私も教育委員の仕事だけでなく、いろいろな各地区にボランティアに行き活動を通して感じることは、言葉は良くないのですが名取市はばらばらでまとまりが中々ないなということで、一生懸命取り組んでいる人は結構いるのですが、どうもひとつになりきれない課題がある。

それは、1つは大人達をまとめればいいのか、どういうふうにより地域の格差をお互いに共有したり改善したりすればいいのかやっつけていけばいいかが、私個人としての課題でもありましたが、今ふるさと教育という話の中で、中学校の子ども達全てが小学校6年間、中学校3年間の中で、名取とはこのような町です、こういう文化こういう歴史こういう人がいて、このような事ができる町ですとお互いに理解できたら、長期的にみれば名取市を変えていく大きな力になるはずと思います。それに懸けたいと思います。

今、教育長より話しがありましたように、もう一度各学校の先生方にプロジェクトの

ようなものをつくって取り組んで実践を共有していただいて、そして子ども達を名取人として育てていけるような形になりましたら、素晴らしい名取の教育になるのではないかなと思いました。

瀧澤教育長

そうですね、ただ先ほど言いましたことをやろうとすると、また先生方に負担をかけるのかなとジレンマもあるのですが、それと佐々木委員よりありました被災地を、私も震災直後から名取市内のこの温度差は何だろうというのは常々感じていました。閑上の方や北釜の方と町場の方と三団地の方で、体験が違うので感じ方が違うのは仕方ないかもしれないけど、これはなんとかしなければならないという思いもあります。

学校での防災教育に取り組むというのは、そういう観点もあるのですけれども、去年か一昨年に「閑上の記憶」で文科省、国の補助をもらい、被災地を子ども達に訪れてもらうというバス代が無くなるまでというのをしたのですが、名取市内の学校で参加したのはゆりが丘小学校1校だけだったそうです。すぐ希望が殺到して無くなったという話を聞きました。私も名取の子ども達にはぜひ閑上を見ることや、気持ちを持たせたいなど今後考えていかなければならないなというのが一つあります。

あと先ほど浅野委員からでました団地でのふるさと教育ですが、私も相互台小学校には勤めたことがありますけども、例えば3年生、4年生の社会科の学習で「郷土を開いた人々」というのがあるのですね。私蔵王町の遠刈田に勤めた時は、あそこは今話題になっていますけど、パラオ諸島から引き揚げてきた人達が戦後に開拓をした牧草地なのです。それは自分でも教材にしたことがあります。ゆりが丘で夏祭りやおやじの会などを一生懸命にしている方とお話しをした時に、その方が言っていたことが印象的だったのですけども、この子ども達が将来大人になった時にここに帰って来たいなと思えるような思い出を作ってあげたい。だから団地は今からふるさとを創っていくというような考え方が必要なのではないかなと思います。ただそれを小中学校でどのような観点を教えるかというのは難しいのですけれども、相互台などは地域の活動がかなり活発だし、そうした中で子ども達が地域の行事に参加していく中でふるさと意識のようなものが出てくるのではないかなと。

この間の全国学力学習状況調査で庁議でも報告させていただいたのですけども、学習状況調査の方で「あなたは地域の行事に進んで参加しますか」という問いに、名取の小学生は全国よりも十数ポイント高い回答をしています。だからまだ名取は地域の力が残っているし、子ども達は地域の行事に全国に比べれば少ないけど参加している。そういうことを通して地域を創っていくとか育てていくことも大事なのかも、ちょっと学校でどうするのだということから離れてしまいますけれども。

山田市長

はい、ありがとうございます。

名取のふるさと等ですね、中学校あたりでは「名取学」いわゆる名取全体を見ていただく、小学校のエリアから中学校では「名取学」ということで、いわゆる名取人を育てる教育をどうしていくかということについて、学校の負担等の課題も考慮しながら進めていかなければいけないというところでまとめとさせていただきます。

他に何かご意見等ございますか。

佐々木委員

はい。すみません。

山田市長

はい、どうぞ。

佐々木委員

付け足しなのですが、名取市に住んでいる大人でも意外と名取について歴史とか人・物・事ですよ、そうしたことについて知らない人達が自分も含めてすごく多いです。公民館などの地域の各所でそうしたものを知る機会を利用して、大人もやはり名取学を勉強しなければならないと、大人と子どもと一緒に学んでいって家庭内で名取学の話が、名取の話ができるようになれば理想だなと思います。

山田市長

分かりました。学校教育だけでなく、社会教育においても「名取学」というものが振興できればいいなというご意見ですね。ありがとうございました。

他に何か。

全員

特になし。

山田市長

それでは(2)ふるさと教育については、名取の子ども達に名取を知ってもらってふるさと名取に愛着をもってもらえるように、ふるさと学習に取り組んでいただきたいと思います。

以上であらかじめお知らせしておきました議題については終了とさせていただきます。

次に4番その他になりますが、何か事務局でありますか。

佐藤庶務課長

特にございません。

山田市長

それでは以上で議事を終了といたします。

本日は大変お忙しい中ありがとうございました。

事務局にお返しいたします。

佐藤庶務課長

本日は大変活発にご意見を交換していただきまして大変ありがとうございました。

以上をもちまして第4回名取市総合教育会議の終了となります。皆さま本日は大変ありがとうございました。

山田市長

大変有意義でした。

瀧澤教育長

ありがとうございました。